



今年の **沢知恵** コンサートは何かが違う！
7月にニューアルバム《雨二モ負ケズ》発表



さわ ともえ
沢知恵

1971年生まれ。第40回日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。東京での季節公演はじめ、ルセン病療養所、災害被災地、少年院等でも活動している。TV出演「徹子の部屋」「題名のない音楽会」等。著書『ありのままの私を愛して』『私のごすべるくろにくる』等。日本キリスト教団岡山教会員。コモエスタ代表。

第六回 荒生田塾コンサート

10月19日(土) 午後**3時**より (2時30分 開場)

沢知恵 弾き語りコンサート

「すべての人のために——

そういうものに私はなりたい」

大人 **2,000円** (当日 2,500円) 小中学生 **1,000円** (当日 1,300円)

※小学生以上対象。未就学のお子さんはミニコンサートにご参加ください。

「こどものためのミニコンサート」

10月19日(土) 午後1時より

入場無料 申込不要 (12時30分開場)



ニューアルバム
《雨二モ負ケズ》
は会場でも販売
するよ！

予約・問い合わせ

093-651-6669

<http://higashiahata.info/>

10月20日(日) 午前**10時30分**より

キリスト教講演会 「**つながることは、生きること！！**」

講師：奥田知志 牧師 (当教会牧師・NPO法人「抱樸」理事長)

※この午前の講演会でも **沢知恵** さんが1曲歌ってくださいます！



10月20日(日) 午後**2時**より 「軒の教会」建築**5周年**記念

教会建築シンポジウム 講師 **手塚貴晴・由比氏**

2014年に完成、グッドデザイン賞や「福岡県美しいまちづくり建築賞」などを受賞した東八幡教会の新会堂「軒の教会」。5周年を機に、デザインして下さった手塚貴晴・由比ご夫妻をお迎えし、講演会とシンポジウムを行います。シンポジウムには手塚建築の熱心なファンでもある沢知恵さんも登壇予定。



OECDとUNESCOにより世界で最も優れた学校に選ばれた「ふじようちえん」を始めとして、子供の為の空間設計を多く手がける。近年ではUNESCOより世界環境建築賞を受ける。手塚貴晴が行ったTEDトークの再生回数は2015年の世界7位を記録。国内では日本建築学会賞、日本建築家協会賞、グッドデザイン金賞、子供環境学会賞などを受けている。手塚由比は文部科学省国立教育政策研究所において幼稚園の設計基準の制定に関わった。現在は建築設計活動に軸足を置きながら、OECDより依頼を受け国内外各地にて子供環境に関する講演会を行なっている。その子供環境に関する理論はハーバード大学によりyellowbookとして出版されている。

うまい！安い！ためになる！

教会バザー

11月23日

(土/休) 10時30分

今年もやってきました！バザーの季節。教会バザーでは、地域の皆様が提供して下さった品物や手作り品、食品など、様々なものが販売されます。また、オークションや子どもコーナーもあるので、家族で楽しめます。一日中楽しめる東八幡の教会バザー。ぜひ皆さんでいらしてください！



今年もやります！

とれたて **新米！**

れんげ米

毎年大好評の新米を今年もどうぞ！

5kg **2400円** (配達無料)

予約受付中！

11月1日より配達開始

品物提供のお願い

バザーは、毎年主旨に賛同くださる多くの方々のご厚意の品物によって支えられています。今年もよろしくお祈りします。

集めている品物

- ①新品食器類 ②タオル、毛布、シーツ、石鹸 ③新品家電 ④古本・CD・DVD
⑤趣味の品・鞆・靴 ⑥新品衣類 ⑦子ども用品・おもちゃ など

申し訳ありませんが、**新品もしくはそれに準ずるもの**に限ります（古本おもちゃは除く）。

ともかくお電話ください。頂きに伺います。よろしくお祈りします。(受付期間：11月1日～19日)

バザーの目的

バザー収益金は、主に以下の目的のために用いられます。

- 東日本大震災被災者・福島原発被害者のために ⇒ 共生地域創造財団
- アフガンでの医療活動のために ⇒ ペシャワール会
- アジアの農業研修生支援のために ⇒ PHD協会
- ホームレス自立支援のために ⇒ NPO法人 抱樸
- 「障害」者施設のために ⇒ 久山療育園、太陽バン
- 海外での医療活動のために ⇒ キリスト教海外医療協力会
- ルワンダの平和と和解のために ⇒ 佐々木さんを支援する会
- フィリピン・ミンダナオ島紛争被害児のために ⇒ ミンダナオ子ども図書館
- 東八幡キリスト教会の活動のために (新教会堂建築費用)

牧師エッセイ「責任の分母を増やそう」

二〇一九年九月 牧師 奥田知志

八月二二日、大分地裁は、マンションの管理人を突き飛ばし死亡させた知的障害者の親に対する賠償請求を棄却した。これは二〇一四年、知的障害のある無職男性から突き飛ばされ死亡した男性管理人の遺族が、監督義務違反を理由に男性の両親に損害賠償を求めた訴訟。裁判長は一九九九年の精神保健福祉法改正で、直ちに見守る法的義務が発生するとはいえないとした。死亡させた男性は一七年に傷害致死容疑で書類送検され不起訴となった後、死亡している。亡くなった男性の家族の気持ちも痛いほどわかる。もって行き場のない悲しみと怒り。一方で責任を問われた親の思い。何よりも突き飛ばされ亡くなったご本人の思い。どう整理したらいいのか。判決がどちらに転んでも、すっきりしないものを感じる。裁判所の判断にゆだねるしかないが、「責任」ということを社会はどう考えるべきかを問われたように思う。

今日「責任」は「自己責任にあらざる身内の責任」という二者択一へと加速度的に進んでいるように思う。責任を担う父母が「自己」か「身内」かしかない。今年六月、元農水事務次官の父親が息子を殺すという痛ましい事件があった。「他人に迷惑をかけてはいけない」と思い息子を刺した」と証言する父は「親の責任を取った」と言いたかったのか。これに対して評価する声さえあるが、それではいいのか。

生きづらさを抱え長期にわたり社会に出ることが出来ない息子を、両親が「抱え」続けている。引きこもる子ども(大人も!)の身を寄せる先が「身内」しかない現実。最近では引き受けをビジネスにしている業者もあらわれたが、実態はどうか。本人と身内だけに責任を負わせる社会は、果たして「社会」と言えるのか。

それでも生きていてくれたらと身内は支え続ける。身内という「安全基地」がいなければ死んでいたかも知れないのも事実だ。だとしても親が抱え続けるには限界がある。親も子も年老いていき、限界の先に絶望の闇が広がる。そして子殺しへ。これは社会の敗北だ。

引きこもり状態にある人と家族にとって、まず必要なのは「身内以外の引きこり先」を確保すること。つまり、親や身内以外の「責任」を増やす。つまり「責任の分母を増やすこと」だ。「引きこもり対策として就労支援の強化を」との声も聞こえるが、慎重にすべきだと思う。

自己責任と身内の責任が強調され過ぎる社会は、その副作用として「社会の責任」や「公の責任」を曖昧にする。自己責任論が社会の無責任を肯定してしまう。裁判では、親の責任をのみ問うた。そもそも遺族が親を訴えたのだから仕方ないが、裏を返せば「訴える先が親しかない」ということを示している。「引きこり社会」と同じ現実がそこにある。本人(自己)と身内だけが責任を負うという社会は長くはもたない。八〇五〇(八〇歳の親に五〇歳の子どもが引きこもる)と言われて久しいが、二つあった「責任の分母」が一つになる日も近い。「責任の分母を増やす」しかない。

分母の無さ、すなわち訴える先の無さが、この判決のすっきりしない原因だ。
イエスという方は、全くの赤の他人の十字架を負われた。それが愛ということだと聖書は語っている。やっぱり、そうなのだ。愛とは社会化の作業だと言える。

礼拝動画ウェブ配信「星の下」プロジェクト

「軒の教会の上には 空が広がっています
この空は きっと あなたの住む町にもつながっています
たとえ今は一人でも 同じ星を見上げているかもしれません
星の下@東八幡教会
ここは誰でも集うことのできる みんなの居場所です」
会員登録・詳細は、次のURLより。 <https://hoshinoshita.info/>



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40 電話/FAX 093 (651) 6669
Email : higashiyahata.ch.1955@nifty.com ホームページ:「東八幡教会」で検索
牧師: 奥田知志 石橋 誠一 協働牧師: 藤田 英彦 森松 長生

